

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104373
法人名	社会福祉法人 恵会
事業所名	グループホーム はっぴー
訪問調査日	平成21年5月26日
評価確定日	平成21年6月26日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104373
法人名	社会福祉法人 恵会
事業所名	グループホーム はっぴー
所在地	鹿児島市下福元町9558番地27 (電話) 099-262-5505
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年5月26日

## 【情報提供票より】(平成21年5月15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年6月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 15人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

## (4) 利用者の概要(5月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	11 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名	
要介護3	5 名	要介護4	3 名	
要介護5	0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 88.5 歳	最低	81 歳	最高 100 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	はっぴークリニック 坂之上生協クリニック 浜田歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の自然豊かな高台に位置するこのホームは、同一法人の施設に隣接して建てられており、職員間の協力体制や施設利用者との交流が盛んに行われている。ホーム内は静かでのんびりとした時間が流れ、一人ひとりのペースに合った支援がなされている。管理者の熱心な指導のもと、職員は積極的に研修に参加するなど、向上心を持ってケアに取り組んでいる。職員、入居者ともに、笑顔の多いホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	【同業者との交流を通じた向上】: 県や地区のグループホーム連絡協議会への参加を積極的に行い、他事業所との交流に努めている。 【現状に即した介護計画の見直し】: 状況に応じて、適切に評価見直しを行うように取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について事前に勉強会を行い、意義を理解した上で、評価項目に沿って職員全体で振り返りを行っている。前回の改善課題については、早急に職員間で話し合い、改善策を検討して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの現状報告と運営に関しての話し合いが定期的になされている。出席者から出された提言等は、サービスの質向上に活かされている。市担当者には書面による案内を行っているが、1年間で1回の出席に留まっているので、引き続き出席の呼びかけを行っていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情や要望が出された場合の対応手順等は確立されている。運営推進会議に多くのご家族が参加しており、意見を表せる場として機能している。相談等については、入居者個々の経過記録に記載して、職員へ周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同一敷地内の法人施設に来訪するボランティアや行事に参加する住民とふれ合ったり、デイサービス利用者との関わりなどを通して、地元の人々との交流を図っている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを意識した理念をつくり上げ、ホームの特性を理解していただけるように積極的な取り組みが実践されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念の唱和を行い、日常のケアの中で意識して取り組むように心がけている。入居者の声に耳を傾けて、思いや願いをできる限りかなえて差し上げたいという気持ちで接するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同一敷地内の法人施設に訪するボランティアや行事に参加する住民とふれ合ったり、デイサービス利用者との関わりなどを通して、地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について事前に勉強会を行い、意義を理解した上で、評価項目に沿って職員全体で振り返りを行っている。前回の改善課題については、早急に職員間で話し合い、改善策を検討して取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現状報告と運営に関しての話し合いが定期的になされている。出席者から出された提言等は、サービスの質向上に活かされている。市担当者には書面による案内を行っているが、1年間で1回の出席に留まっている。	○	市担当者も交えて意見交換がなされることで、より発展的な話し合いとなるように、引き続き出席の呼びかけを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口には申請等の手続きの他、相談や助言を受けるために出向いているが、市担当者がホームを訪れる機会は少ない。	○	市担当者と行き来する関係を築くことで、ホームの考え方や実態をよく知ってもらい、ともに課題解決に取り組むことができるように、積極的な働きかけが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回ホーム便りを発行しており、請求書とともにご家族に郵送している。また、ご家族の面会時には、職員が積極的に入居者の生活状況や健康状態について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望が出された場合の対応手順等は確立されている。運営推進会議に多くのご家族が参加しており、意見を表せる場として機能している。相談等については、入居者個々の経過記録に記載して、職員へ周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たな職員が入職する場合、試用期間を3ヶ月設けて適性を判断している。また、職員が働きやすい職場環境づくりとして、待遇改善や夜勤の業務見直し等を積極的に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回法人内の勉強会があり、希望者は参加している。介護福祉士資格の取得を目指して、勉強会の開催や勤務体制を工夫するなどして、職員それぞれの段階に応じたサポートを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会には積極的に参加しているが、他ホームの職員と交流する機会は少なく、相互訪問等も今のところ行われていない。	○	他ホームとの相互訪問等を通して情報交換や相談を行うことで、職員の資質向上とともに、地域全体のサービスの質向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人施設のサービス(デイサービス、ショートステイ)を利用中にホームの見学や交流を行うことで、入居前から馴染みの関係づくりができています。また、昼食を一緒に食べる機会を設けることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者より、職員のケアの様子や料理の仕方について助言をいただくことが多い。職員は、「勉強になりました」という感謝の気持ちをお返しするように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアを通して、一人ひとりの特徴や性格を把握し、意向や思いを感じ取るように心がけている。入居者それぞれに表現の仕方は異なるものの、何かしらのサインを出しているため、職員はそれを見逃すことの無いように注意を払っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを把握するために、職員全員が入居者一人ひとりについて「私の姿シート」を作成している。これを基に、ご家族と話し合う機会を持ち、介護計画の立案を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、3ヶ月毎の処遇会議における計画の評価および6ヶ月に1回の見直しを行っている。その他、入居者の身体状態の変化に応じて、随時計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物支援や通院介助、墓参りの同行などを、入居者の希望に応じて行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者およびご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定している。協力医療機関との連携を緊密にし、適切な医療を受けられるように情報交換を積極的に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに看取り介護を行っており、入居の際に、重度化した場合や終末期について、本人およびご家族に意向の聞き取りを行っている。身体状態の変化時には、その都度意向を再確認して、同意書をいただいている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーについて、不適切な対応が無いように、日々の業務の中で注意を払い指導を徹底している。特に、排泄時の声かけについては、さりげなく、手際よく接するように指導が行き届いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを把握し、できるだけ希望に添えるように努めているが、困難な場合は時間や方法を工夫するなどして、少しでも納得してもらえるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的に職員が決定しているが、入居者の希望にも応じるようにしている。食事の準備や、後片付けについては、入居者の力に応じて一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回入浴しており、時間帯は特に決められていない。拒否のある方には、少なくとも週に2回は入ってもらえるように、声かけや誘導方法を工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や特技、昔の職業経験が活かせるように、必要な道具をご家族より調達してもらったり、それぞれの取り組み状況を見るなどしながら、日々の暮らしを楽しめるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態を見ながら、声をかけて外出のお誘いをしている。拒否される場合には無理強いせず、本人のペースに合わせて対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。敷地が広く、法人施設と隣接しているため、施設職員と協力しながら見守り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、外出傾向のある方の場合、夕方の時間帯には特に注意しながら職員全員で見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、法人施設と合同で避難訓練を実施するほか、ホーム単独での通報訓練を行っている。また、地域住民の協力が得られるように働きかけており、体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄チェック表に、食事摂取量や水分摂取量および排泄状況の記録を行っている。献立については、法人の栄養士に検食してもらい、指導や助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には、ぬいぐるみや造花、郵便箱など目印になるものが置かれている。廊下には椅子が置かれ、庭にもくつろげるスペースがつくられており、入居者は思い思いに過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや箆笥、鏡、冷暖房は備え付けてあり、その他にも馴染みの家具や装飾品を持ち込んでいただくようにして、入居者が居心地よく暮らせるように支援している。		